

適正処理の推進について

1 ごみの中間処理・最終処分

(1) 検討の視点

- 中間処理を実施する東京二十三区清掃一部事務組合（一組）、最終処分場を管理する東京都と連携し、ごみの中間処理・最終処分体制を安定的に維持していくとともに、災害廃棄物対策も進めていく必要があります。

○一組の実施する不燃ごみの中間処理とは別に、平成 28 年度は 30%程度、平成 29 年度より全量を選別・資源化施設へ搬入し、不燃ごみ資源化事業を実施しています。（下表参照）

（平成 28 年度不燃ごみ資源化実績）

不燃ごみ収集量	資源化量	資源化割合
3,253.13t	798.46t	24.54%

(2) 考えられる施策の方向性

- ① 東京都、一組との連携のもと、安定的なごみの中間処理・最終処分体制を維持する。
- ② 国の災害廃棄物対策指針、東京都の災害廃棄物処理計画の策定を踏まえ、区としての災害廃棄物処理計画を策定する。
- ③ 平成 28 年度から開始した不燃ごみの資源化事業を引き続き推進していく。

2 水銀など有害物の適正処理

(1) 検討の視点

- 平成 28 年 2 月の水俣条約が締結されました。また、水銀混入ごみの清掃工場への搬入により、焼却炉が停止する事態がたびたび起こっています。これらを踏まえ水銀をはじめとする有害物や適正処理困難物のごみへの混入排除を進めることが求められています。

(2) 水銀含有物に関する分別状況

本区では、水銀を含む蛍光灯や体温計は不燃ごみに排出することとなっています（収集後は、区独自の不燃ごみ資源化施設に搬入）。

また、ボタン型電池は買った店への返却、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池などの小型充電式電池は「小型充電式電池リサイクル協力店」のリサイクル BOX への排出を呼びかけています。

23 区における水銀含有物の回収方法には、以下のような例があります。

- 水銀含有物は不燃ごみの日に別の袋に入れて排出する（新宿区、中野区）
- 資源の日に集積所回収（品川区）
- 公共施設などで拠点回収（中央区、北区、世田谷区など）
- 水銀体温計・血圧計は不燃の日に手渡し、もしくは、清掃事務所に連絡（練馬区）

(3) 考えられる施策の方向性

水銀含有物については不燃ごみの日に別袋に出すなどして、不燃ごみ選別処理の際に選別しやすくし、ごみへの混入を防いでいく。